

日本の気象(2)

名前

- 1 次の文章は、日本の天気の特徴^{とくちょう}についての説明である。()に当てはまる言葉を書くか、○でかこみなさい。
- (1) 春と秋には西から東へと天気が規則的に変化する、これは(① 季節風・偏西風^{へんせいふう})の影響^{えいきょう}により、大陸からの(② 移動性高気圧・太平洋高気圧^{いどうせいこうきあつ})と低気圧^{こうご}が交互に日本を通過していくためである。
- (2) 夏が近づくと、日本の北東に発達した(シベリア気団・オホーツク海気団・小笠原気団^{おがさわら})の冷たくて湿った空気と、日本の南の太平洋上で発達した(シベリア気団・オホーツク海気団・小笠原気団)の暖かく湿った空気が接するところに東西に長くのびた(③ 停滞・閉塞^{ていたい へいそく})前線ができる。この③前線のことを(④)という。
- (3) ④の上では低気圧が次々と発生し雨や曇^{くも}りの日が多くなる。この時期のことを(⑤) (梅雨)という。
- (4) 7月の中頃になると(オホーツク海気団・小笠原気団)の勢力が増し、(オホーツク海気団・小笠原気団)の勢力が衰^{おとろ}える。これにより④が北に押し上げられて消滅し、(つゆ入り・つゆ明け)となって、本格的な夏を迎える。
- (5) 夏は日本の南側の海洋上に(高気圧・低気圧)、北側の大陸上に(高気圧・低気圧)がある(⑥ 南高北低・北高南低)の気圧配置になりやすく、夏の季節風である湿^{しめ}った(南東・北西)の風が吹いて、蒸し暑い晴れの日が続く。日差しが強く、局所的に上昇気流が生じるため、夕方に一時的な激しい雷雨(夕立)が起こりやすい。
- (6) 初秋にできる④と同じような停滞前線のことを(⑥)という。
- (7) 日本の南方海上の熱帯地域で発生する(熱帯・温帯)低気圧のうち、最大風速が17.2m/s以上になったものを(⑦)という。⑦は、春から夏まではユーラシア大陸の方に進むことが多いが、秋が近くなり、太平洋高気圧の勢力が弱まると北上して日本列島に近づくことが多くなり、強風や大雨による洪水や土砂くずれなどの災害をおよぼすこともある。
- (8) 冬はシベリア気団が大きく発達し、日本の西側の大陸上に(高気圧・低気圧)、東側の海洋上に(高気圧・低気圧)がある(⑧ 東高西低・西高東低)の気圧配置になりやすく、冬の季節風である冷たく乾燥^{かんそう}した(南東・北西)の風が吹く。この風が日本海を渡るときに大量の水蒸気^{ふく}を含んで雲を発生させ、日本列島に到達して、日本海側に雪を降らせる。雪を降らせた空気は水蒸気を失って再び乾燥し、太平洋側へと流れるので、日本海側では雪の降る日が多く、太平洋側では乾燥した晴れの日が多い。
- (9) 日本は(寒冷・温暖)で年間の降水量が(少なく・多く)、きれいな水を豊富に利用できる。一方で台風^{こうずい}の強風や大雨などから生じる洪水や土砂崩^{どしゃくず}れなど、気象災害への備えも重要である。